

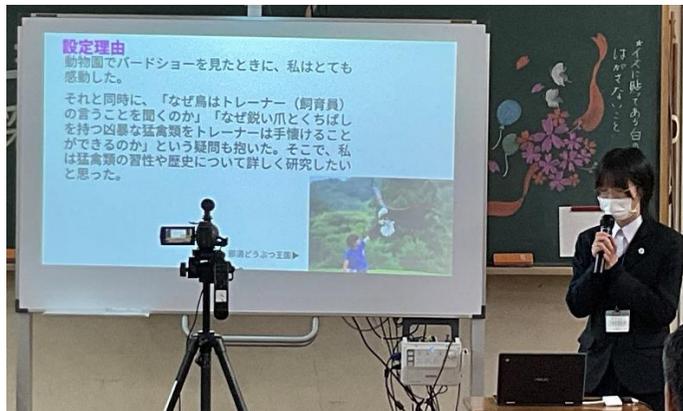
令和5年度 県西地区三校合同探究発表会



- ◆日時：令和6年3月26日（火）（14:00～16:00）
- ◆場所：茨城県立下妻第二高等学校 本館1階 会議室
- ◆目的：探究をテーマにした交流 及び 各校の独創的なアイデアやアプローチを共有し、学びの拡大を目指す

このたび、境高校、鬼怒商業高校、下妻第二高校の3校合同で、総合探究の発表会を開催いたしました。

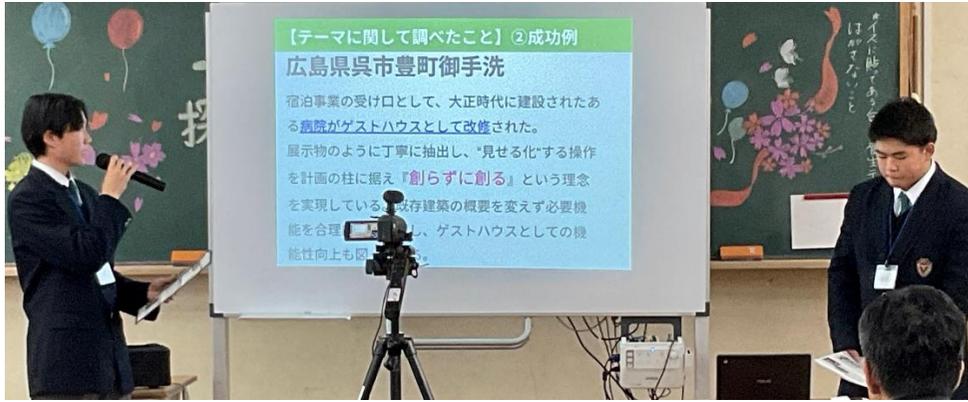
各校を代表する全7グループが発表いたしました。YouTubeにおいても限定公開しております。あわせてご視聴ください。



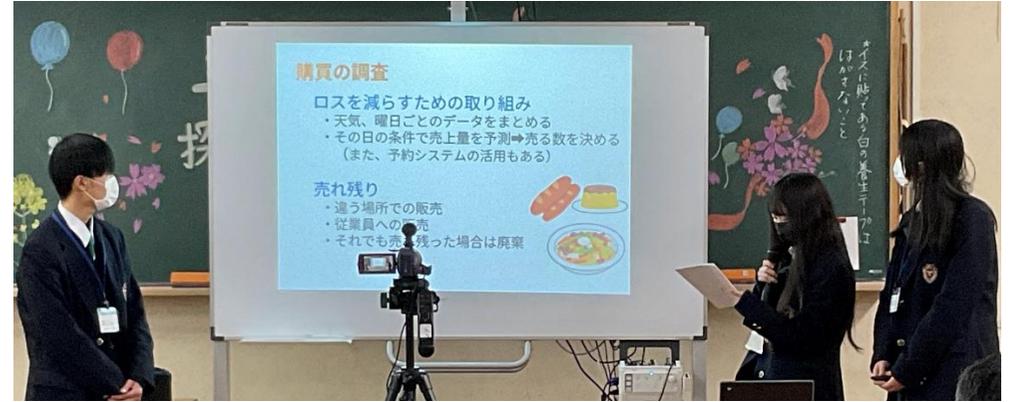
境高①「バードトレーナーはなぜ猛禽類を手懐けることができるのか？」



境高②「勉強なしで人は生きていけるのか？」



鬼怒商業高③「古民家の有効活用手段についての検討」



鬼怒商業高④「食品ロスへの対策に関する調査と実践」



下妻二高⑤「～妻二生考案！子どもたちとの英語学習プログラム～

保育園英語プロジェクト」



下妻二高⑥「食べ物が導く『スキとキライのメカニズム』

～知ろう、先入観に隠された本当のあなた～」



開会の言葉



閉会の言葉



司会・進行

運営スタッフ生徒も頑張りました！！

下妻二高⑦「SNSで地域活性化を図ってみた！～下妻市の魅力を発信～」



生徒協議・交流会の様子



参加生徒の皆さん、お疲れさまでした！

今後の学びが、より充実したものになりますように・・・

～担当者の振り返り～

三校合同発表会での主題は2つに大別できる。1つ目は勉強の意味などの自己に関する問いであり、2つ目はフードロスの削減などの自己と社会を接続させる問いである。

前者には、日常から生まれた疑問を解決しようとする姿勢に拍手を送りたい。人間は思考停止が常であり、“あえて”日常を哲学することは困難である。この観点を忘れず、様々な事象を探究し続けてもらいたい。

後者は、社会に寄与する知見を提示したことが賞賛に値する。高校生でありながら妥当性が高い解決策を導いた。これからも地域や日本に目を向けつづけてほしい。

いずれの発表も洗練されており、知的好奇心をくすぐられた。研究したい、と久しぶりに思わせられた良い時間であった。

1 学年探究担当*令和5年度 武藤 優輝

本来、新しいことを知ったり未知なものに出逢ったりすることは楽しいことなのだが、そこに苦痛や忍耐が生じれば、一瞬にして「学ぶことは楽しくない」という気持ちにギアが入れ替わってしまう。ただし探究学習に関しては、まったくの逆。自分たちが探究したいことに対して「なぜ？どうして？」の問いと向き合い続け、自分たちなりの解を見つける過程そのものがどうやら面白いらしい。そして、最適解に辿り着いたときの達成感は言葉にできないほどのレベルであるとのこと。そのように話す生徒の探究学習を伴走してきた教師側も同じように、そのわくわく感を共有でき、探究から得られる恩恵をお裾分けしてもらっている感じがしている。

この度の三校合同探究発表会を開催するにあたり、初めての試みでもあることから、生徒も私たち担当者も手探りの状態で準備をスタートさせた。改めて振り返ってみると、この発表会そのものが、

課題設定(合同で発表会やってみたら面白そう) → 情報収集(三校でオンライン会議) → 考察(どんな風にやればいいかな…) → 発表・まとめ(探究を通して交流)の探究プロセスをしっかりと踏んでいることに気づかされる。得られた成果が今後どのような形で生徒(さらには教師)の学びにつながっていくか大変楽しみである。

最後に、開催にあたり、数ヶ月間、共に準備してきた境高の柿沼先生、鬼怒商業高の渡辺先生、そして両校の参加生徒及び関係者の皆様には、改めて感謝申し上げます。

合同探究発表会担当 北條 奈緒美